SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

これからの社会と高校数学教育(高等学校部会,IV部会講演,第97回全国算数・数学教育研究(北海道)大会報告)

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本数学教育学会 公開日: 2016-04-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長崎, 栄三 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9347

高等学校部会（かでる２・７ホール）

「これからの社会と高校数学教育」
（国立教育政策研究所名誉所員
元静岡大学教職大学院教授　長崎　栄三）

高校数学の今回の学習指導要領の改訂では，「数学的活動」「課題学習」「規準準拠評価」が特徴であるが，戦後の高校数学の教育課程には，「中心概念」「一般数学，数学一般，数学基礎」「主体的・協働的」という大きな論点がある．

最近の社会の変化として，持続可能な社会や，民主主義社会といった理念への危機や，少子高齢社会，高度情報化社会，グローバル社会といった急激な社会構造の変化などがあり，今後は，社会が期待する，コンピテンシー，スキル，論理的思考，数学的リテラシーなどの力を身に付ける教育目標が必要である．

数学教育を考えるとき，生涯学習としての教育システム観，社会的構成主義としての知識観，「数学」から「数理科学」へといった数学観，教育観が座標軸として必要である．

さらに高校全体として，高等学校基礎学力テスト，大学入学希望者学力評価テストや，理数関係の新しい科目の可能性が論議されている．

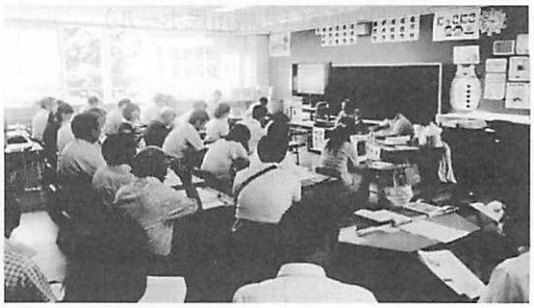
これからの高校の数学教育を考えるとき，誰のための高校数学かという視点に立ち，理学系大学志向，工学・人間社会科学・人文系大学志向，職業志向という多様な生徒に応じ，1つの数学から多様な数学に拡げるために，数学と現実世界の両者を意識しながら，生徒の主体的・協働的な活動を導き，数学の方法を身に付けさせる必要がある．当然，コンピュータの活用も考えなければならない．また，相対評価から絶対評価（規準準拠評価）に変わった意義や，数学はなぜ高１でも必修なのかを考えていきたい．

今大会では，どのような数学の方法・力を身に付けさせているのか，そのための数学的活動はどうなっているのか，ICTはどうなっているのか，課題学習では数学的活動が機能しているのか，生徒の考えを活かしているのか，生徒は話し合っているのか，生徒の視点からの評価になっているのか，生徒は数学を楽しんでいるのか，といった視点で発表を聴いてみたい．

今後も，研究者としての教師，学び続ける教師でありたいと思う．この大会で得たことを地元に戻って，他の教師と一緒に考えていただきたい．

Ⅴ　分科会

【幼稚園・小学校部会】

1　日時　平成27年８月７日（金）　9：30～16：30
2　会場　札幌市立桑園小学校
3　各領域の教室数と実践発表本数　　計182本

教育課程・評価	1教室	8本
特別支援教育・幼稚園	1教室	4本
数と計算	3教室	23本
量と測定	1教室	7本
図形	1教室	8本
数量関係	3教室	23本
問題解決	3教室	20本
数学的な見方や考え方	4教室	27本
学習指導法	6教室	46本
ICTの活用	1教室	7本
基礎・自由研究，総合・他教科	1教室	6本
ポスターセッション		2本
ワークショップ		1本